

2020夏季手当交渉 会社の考え

本部は、6月5日、2020年夏季手当交渉 会社の考えを行いました。
以下、報告します。

「会社」

まず、収入動向について（5月を終えた時点）だが、対計画でコンテナが87,9% △23億円。車扱が91,8% △1,5億円。合計で△24,5億円となっている。事業開発収入としては、事業計画（304億円）の達成に向けて鋭意取り組んでいく。経費については、現時点で具体的な数字はないが、輸送量に応じた輸送力変更（曜日運休の拡大や編成減車等）に努めていく。

会社として、新型コロナウイルス感染症の状況下において、指定公共機関としての使命を果たすべく、現場社員の奮闘に改めて敬意を表す。列車運行状況についても、昨年の4,5月は87本の運休が生じたが、今年度は60本（△27）の運休となっており、新型コロナウイルスの影響で輸送量は減少しているものの、社員の頑張りにより、安定輸送が確保でき、輸送サービスの維持に繋がっていると考えている。

今年度は、鉄道事業黒字を目指してスタートしたが、現状は対計画△24,5億円と厳しいものとなっているが、目標を見失うことなく、指定公共機関としての使命を果たしていく必要がある。

新しい人事制度については、社員が生き生きとやりがいをもって働けるように、意見交換の場を経て、具体策をもって進捗していきたいと考える。まじめに働く社員が報われるように引き続き労使一体となって、取り組んでいきたい。

以上を踏まえた上で、現時点での会社の考えは、「昨年夏の基準額を基本として、どれだけ上積みできるか、収入動向を見極めた上で、最終回答を出したい」である。

組合・昨年夏の基準額を基本としてとあるが、数値はいくつか。

会社・1,6ヶ月である。

組合・組合員は、新型コロナウイルス感染リスクと闘いながら、列車を止めることなく、日々、安全安定輸送に努めている。会社の状況が厳しいことは理解するが、2020年3月期の決算成績は、2019年3月期よりも大幅に改善しており、この結果を生み出したのは組合員一人一人の頑張りである。本日の会社の考えには誠意が全く感じられず、到底納得できるものではない。新型コロナウイルスの影響がどこまで続くか分からないこの危機的な状況を、労使が一体となって打破していこうとも、会社の対応がこれでは、モチベーションは上がらず、巻き返す士気さえ失ってしまう。次回は回答となるが、誠意ある回答を強く求めたい。

会社・主張は承った。社内で議論し最終回答を出していきたい。

以上
